

保育推進活動報告 (令和3年6月2日～3日)

令和3年度第1回全国保育推進連盟中央研修会を行いました。

全国保育推進連盟 広報委員会発行

去る令和3年6月2日、丹羽清光推進青年部長司会のもと、江渡聡徳全国保育推進連盟会長代行より主催者挨拶が行われ、佐藤勉自民党総務会長、下村博文自民党政調会長、伊吹文明自民党全国保育関係議員連盟顧問、野田毅同連盟会長、金子恭之同連盟事務局長、福岡資麿自民党厚生労働部会長より挨拶を賜り、最後の古賀篤推進議員幹事長のご挨拶を以て、厳粛の内に中央研修会が開会しました。

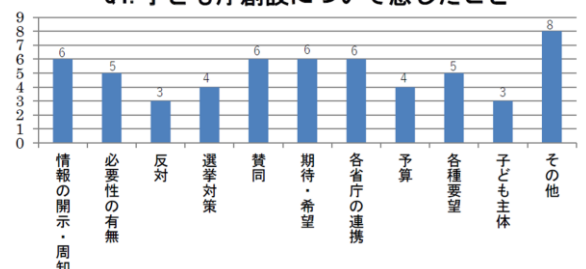


午後2時から研修①が始まり、吉岡伸太郎推進幹事長より情勢報告及び政策要望について本部報告を行いました。①保育士賃金を全国労働者の平均迄引き上げ②特に4, 5歳児の保育士配置基準の改善③こども庁創設に関する関係職員の意識改革や環境整備④保育施設職員のワクチンの優先的摂取、以上4つの項目を十分に議論し、国に主導権をもって方針を示して欲しいと強く語りました。



続く研修②では、「子ども庁の創設で保育はどう変わるか?」と題し、田中英之衆議院議員、古賀篤衆議院議員、推進幹事長の吉岡伸太郎氏によるシンポジウムが行なわれました。吉岡氏は議論の前段として「保育従事者の処遇が全産業の平均賃金水準に達するまでの間は、公定価格の人件費算定の減額を処遇改善加算の更なる積み上げで埋めるべき」と訴えたのに対し、古賀議員は子ども庁創設を、幼児教育・保育の無償化による支出で一段落してしまった様に思われがちな現状を打破する契機にしたいとの持論を展開しました。また壇上では会員のアンケート結果も披露され、議論内容が明らかにされていない子ども庁創設に対する不安感が浮き彫りになった。最後に大島推進筆頭副会長から「子ども庁創設の裏で児童福祉法が改定されるような事があってはならない」との発言もあり、田中議員が「若い世代を支える予算の確保に取り組んでいきたい」と締めくくりました。

Q4. 子ども庁創設について感じたこと





研修③では、選挙対策委員長を務める山口泰明衆議院議員の時局講演として、「子は国の宝」という自身の好きな言葉を用いつつ、コロナ対策に励む福祉・医療従事者に温かい労いの言葉をかけ、最後に来る選挙への応援を呼び掛けました。

その後の情報交換会では120名強の賛助国会議員にご来場頂く中(代理出席含む)、本連盟会長代行の江渡聡徳衆議院議員や副会長の有村治子参議院議員・岡田広参議院議員による主催者挨拶の後、全国保育関係議員連盟会長の野田毅衆議院議員、坂本哲志少子化対策担当大臣より来賓挨拶を頂き、本連盟の「保育政策・予算確保に関する要望書」を会場の全員で確認した後、秋の衆議院選挙に向けた「頑張ろうコール」を“コロナ禍に配慮した形”で行い、賛助会員の先生方を支援すべく、会場・オンライン上共に一同心を通わせました。その他多くの参加議員の皆様からもご挨拶を戴き、盛会の内に終了しました。



2日目の午前10時から厚労省谷田貝保育課長をお招きして行政説明を行いました。大別して、①前年度対比の予算説明、②新子育て安心プランに沿った受け皿整備と、人口減少地域における保育所の新たな役割の検討、③昨年度0.3%減となった処遇改善予算について、④ワクチンの優先接種、⑤子ども庁議論の経緯と現在(以上)。質疑応答では、来場者二名から地域の現状に基く要望等がなされました。

最後に執行部や支部長等が登壇し、全国代表者等連絡会議を行いました。本連盟のこれ迄の歩みを共に振り返り、積み上げ方式の堅持は勿論の事、コロナ禍における物資不足や諸問題等への迅速な対応や解決についても、日頃の本連盟の丁寧な活動と、賛助会員の先生方のお力の賜物だと確認しました。コロナ禍によって財政が厳しい中だからこそ断固とした要望を上げ、特に処遇改善を勝ち取っていかないと、給付費が益々目減りするの火を見るよりも明らかである事、また来年は公定価格見直しの中間年であり、一定の見直しが予想される為、保育者の思いと行動を結集する必要がある事等、危機意識の共有が行われました。保育を守る為には、会員各位が本連盟の「要望書」を以て地元選出議員に強くお伝えすると共に、秋に控える選挙ではしっかりと応援し、共に戦って保育を良くしていくといった関係を形にする事こそが大切であり、そして会員を拡大し、より大きな力としていく事の大切さ等を、改めて確認し合いました。また現場の職員一人一人とも意識を共有する大切さや、開かれた推進への賛意の声も上がり、先人の苦勞に思いをはせ、涙が零れる場面も見られる中、2日間の研修会を閉会しました。研修会にご参加ご協力を頂いた多くの方々に、厚く御礼申し上げます。